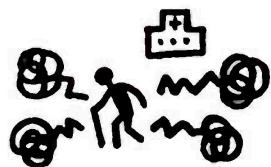


糖尿病は大きな発がん要因です。わが国の調査でも、膵臓(すいぞう)がん・肝臓がんを約2倍、大腸がんを1.4倍、がん全体でも1.2倍に増加させることが分かっています。糖尿病の人は「がん予備軍」と言えるのです。

しかし、糖尿病以外の慢性疾患でもがんが増えることが明らかになってきました。台湾での大規模な追跡調査では、がんではない40万人を対象に、血圧、コレステロール値、心拍数、血糖値、たんぱく尿、腎機能、呼吸機能(肺活量など)、尿酸値を測定した上で追跡調査を行いました。平均8・7年の追跡期間中にがんを発症したのは927

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

慢性疾患で高まるリスク

死亡するリスクを高めていました。やはりコレステロールが低い人たちは高い人より64%もリスクが高くなっています。なぜそうなるかのメカニズムの解明はこれからの課題です。

これまでの疫学調査によると、好ましくない5つの生活習慣(喫煙、野菜・果物不足、運動不足、飲酒、肥満)が、

をもたらすことが分かりました。慢性疾患が重なるほど最悪の生活習慣の人と同じくらいリスクとなるわけです。

私の33年の臨床経験からも、高齢のがん患者の多くが慢性疾患を持っていると言えます。逆に言えば、がんだけを治療しても背景にある病気が悪化すれば元も子もないわけです。実際、がん治療を始めたあとで、別の病気の症状が強くなり、後悔したケースは枚挙に暇がありません。

昨今はがん専門病院で治療を希望する患者が増えていきます。しかしすべての病気に対応できる「総合力」のある大病院などでがん治療を受けるメリットは大きいと思います。(東京大学病院准教授)

3人、がんで死亡したのは3779人でした。発がんのリスクは、血圧や呼吸機能の異常とは有意な関連がみられませんでした。

それ以外の異常はがんの発

症リスクを高めることが分かりました。特にコレステロールが低すぎる人は高い人よりリスクが44%も高まっています。

8種の異常すべてががん

がんになる原因の約25%、がん死亡する原因の約40%を占めるとされます。一方、台湾での研究から8種類の慢性疾患が、がんになる原因の約2割、がん死亡原因の約4割